

## 今週の為替相場見通し(2017年1月30日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		112.52 ~ 115.38	115.06	113.00 ~ 117.50
ユーロ	(ドル)		1.0658 ~ 1.0775	1.0698	1.0500 ~ 1.0850
(1ユーロ=)	(円)		121.14 ~ 123.31	123.01	121.00 ~ 125.00
英ポンド	(ドル)		1.2360 ~ 1.2674	1.2550	1.2500 ~ 1.2700
(1英ポンド=)	(円)	*	140.77 ~ 144.79	144.43	143.00 ~ 146.00
豪ドル	(ドル)		0.7511 ~ 0.7609	0.7546	0.7450 ~ 0.7650
(1豪ドル=)	(円)	*	85.33 ~ 87.09	86.91	85.00 ~ 88.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1)今週の予想レンジ: 113.00 ~ 117.50 円

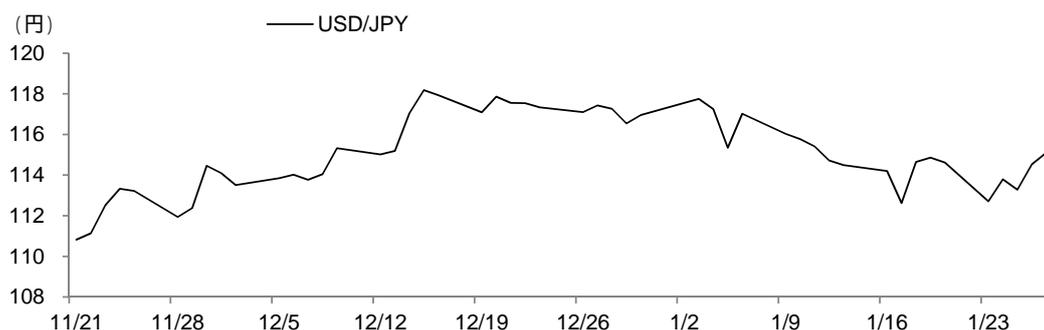
(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円相場は、週初に下落するも、週後半にかけては上昇した。週明け23日、114円台前半でオープンしたドル/円相場はトランプ米大統領就任式を経て、ドル買い持ちの解消が一段と進む展開。ストップスを巻き込みながら114円を割り込み、日経平均株価の下落も相俟って、113円台前半まで続落した。その後、トランプ大統領が環太平洋経済連携協定(TPP)離脱に関する大統領令に署名したことが報じられると、保護主義への懸念が強まったことを背景にドル/円は113円を下抜け、112円後半まで下落。翌24日、前日のムニューチン次期米財務長官のドル高けん制発言が意識され週安値の112.53円まで下落するも、米株の堅調推移や米長期金利上昇を受けて、ドル/円も反発し113円後半まで上昇。25日は、一時113.99円をつけるも一段の買い材料に欠けると徐々に戻り売られ、ドル円は113円台でレンジ内推移となった。26日、前日の北米時間にNYダウ平均株価が大台の2万ドルに乗せ史上最高値を更新したことや、米長期金利が上昇したことを背景にドル買い優勢の展開。ドル/円は欧州時間に入り114円台に乗せると、原油価格の上昇にもサポートされる格好で114.86円まで続伸。27日もドル買い優勢の地合いが継続しドル円は115円を抜ける展開に。その後、米10~12月期GDP(1次速報値)の弱い結果に、113円台後半まで売られる場面も見られたがすぐに買い戻され、週高値の115.38円まで上昇。週末を控え米長期金利が低下すると、ドル/円の上値は重くなり115円台前半で越週した。

今週のドル円相場は、レンジ内で底堅い値動きを予想。今週は、日銀金融政策決定会合(1月30日~31日)とFOMC(1月31日~2月1日)が予定されているほか、2月3日(金)米1月雇用統計を筆頭に、1日(水)米1月ADP雇用統計、1月ISM製造業景気指数等、米国の重要指標が多数発表される。足許、トランプ政権の保護主義政策に対する懸念を背景にドル売り圧力が生まれつつあるも、減税・財政出動への期待を受けたドル買いの動きも根強い。斯かる状況下、製造業関連指標が弱含むとドル高による米企業への悪影響が意識され一時的にドル売りとなることが予想される。しかし、イエレンFRB議長はデュアルマニデート(雇用最大化と物価安定)達成に自信を見せており、今回のFOMCでそのスタンスが変更されない可能性が高く、米債が大きく買い戻される展開は想定しがたい。そのため、ドル/円の下値は限定的と考える。なお、日銀金融政策決定会合については、ドル/円は黒田日銀総裁会見の内容に神経質な反応を見せつつも、大きな方向感はないものと考えられる。

(3)先週までの相場の推移

先週(1/23~1/27)の値動き: 安値 112.52 円 高値 115.38 円 終値 115.06 円



(資料)ブルームバーグ

## 2. ユーロ

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1) 今週の予想レンジ: 1.0500 ~ 1.0850 121.00 ~ 125.00 円

(2) ポイント(先週の回顧と今週の見通し)

先週のユーロ相場は対ドルで下落した一方、対円で上昇する展開となった。週初23日に対ドルで1.06台後半、対円では122円台半ばでオープン。20日のトランプ大統領の就任演説の内容が期待外れとの見方からドル売りが進行すると1.07台半ばまで上昇。ムニューチン次期財務長官の「過度なドル高は短期的にマイナスの影響を与える可能性がある」との発言が伝わるとドル売りが強まり1.07台後半まで上昇した。一方、対円ではドル/円の下落に連れて一時週安値となる121.14円まで下落した。24日は前日の流れを引き継ぎ対ドルで一時週高値となる1.0775をつけるも、米株や米金利の上昇を背景にドル買いが強まり、1.07台前半まで反落した。対円では堅調なドル/円の推移を背景に122円台まで上昇した。25日は新規材料に欠ける中、ユーロ/ドルは1.07台での動意に乏しい展開となった。26日は米株の上昇などを受けてのドル買い優勢地合いの展開に対ドルで一時週安値となる1.0658まで値を下げた。27日は1.06台後半で上値の重い推移が続いた後、米10~12月期GDP(1次速報)が市場予想を下回ったことなどからドル売りが強まると1.07台を回復。対ドルでユーロ買いが強まったことを受けて対円では一時週高値となる123.31円まで上昇した。その後は週末を控え動意に乏しい推移となり、対ドルで1.06台後半、対円では123円台前半で越週した。

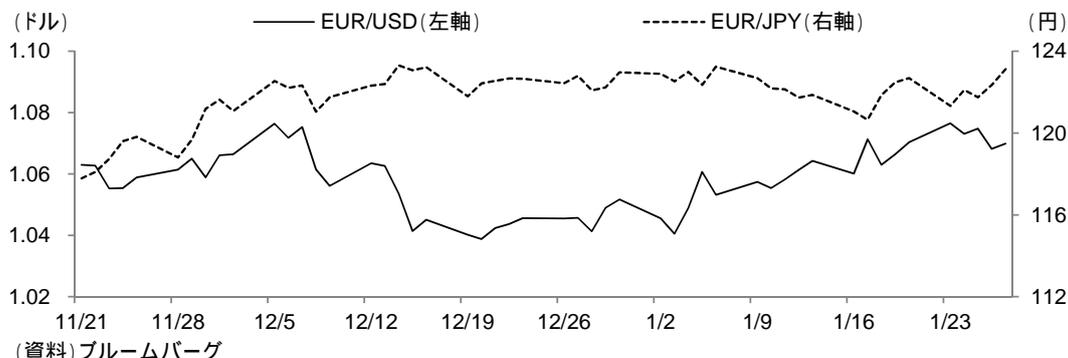
今週のユーロ相場は上値の重い推移を予想する。今週は31日(火)に発表されるユーロ圏1月拡大消費者物価指数(CPI)をはじめとしてユーロ圏で重要指標の発表が相次ぐ予定。ECB理事会(1月19日)後のドラギECB総裁の会見では足許の物価上昇は原油価格上昇に伴う一時的なものとの認識が示され、当面は緩和的な政策が継続することが示唆された。そのため、指標発表後は結果に応じて上下することが予想されるものの、それらを受けて緩和縮小の思惑が大きく盛り上がることは考えづらく、政治リスクも強く意識される中でユーロは積極的に買われづらいだろう。なお、米国で1月31日(火)~2月1日(水)に開催されるFOMCでは現状の金融政策維持が予想されている。利上げを決定した前回会合の内容はタカ派と捉えられたが、その後発表された米国経済指標では目立った経済指標の下振れが確認されておらず、今回のFOMCの結果も追加利上げ期待を後退させる内容とはならないだろう。先週はトランプ大統領の言動がドル相場を通じてユーロ相場にも影響を与える局面が度々見られており、今週も引き続き相場に波乱をもたらす可能性には十分警戒しなければならないが、基本的には欧米の金融政策格差を背景に上値の重い推移となると予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/23~1/27)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0658 高値 1.0775 終値 1.0698

(対円) 安値 121.14 高値 123.31 終値 123.01



### 3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.2500 ~ 1.2700 143.00 ~ 146.00 円

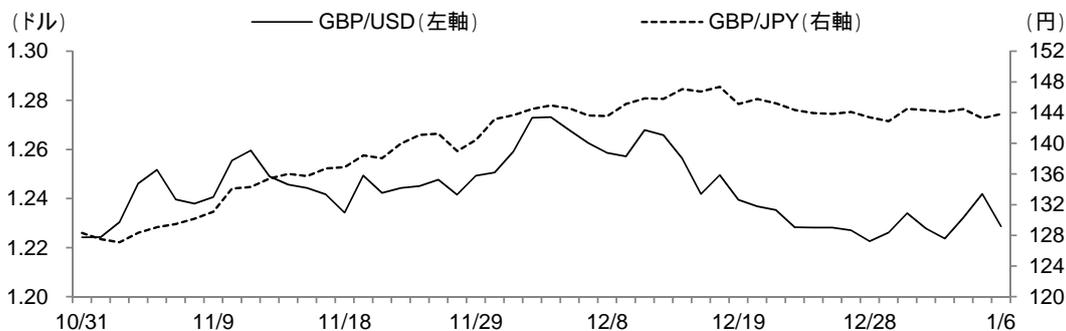
(2) ポイント(先週の回顧と今週の見通し)

先週の英ポンド相場は、対ドル、対ユーロでは、堅調推移先行後、週引けに掛けて頭打ち。対円での上昇は出遅れたものの、その後週引けまで堅調推移が続いた。ただし、この間、ポンド側の材料が目立ったのは24日の英最高裁判決や26日の英10～12月期GDP速報値くらいで、しかも、いずれもポンドの値動きとの因果関係ははっきりしなかった。週初のポンド/ドル上昇は、ドル全面安の結果と言え、前週末(20日)の米大統領就任式のトランプ大統領演説に対する失望などが引き続きドルの重石になったものと考えられた。大型減税など具体的な経済政策に言及がなかったことや、就任早速TPPからの撤退を表明し、米の孤立主義への傾倒が警戒されたことなどが理由と考えられた。逆に、週後半に掛けて、対円や対ユーロでドルが反発した背景にも、米経済の先行きに対する思惑があった模様。この局面では、ダウ工業株平均が史上初めて2万ドルを突破し(25日)、逆に米経済の先行きに対する楽観が材料視された。27日、ドルやユーロに対してポンドが軟調に転じた一方、対円で高止まりしたのも、同日の日銀の国債買い入れオペが、「中長期金利の上昇は抑制する」姿勢を明確にしたと受け止められたことで進んだ円安の結果と考えられた。24日の英最高裁判所決定(後述)は、その後のポンドの値動きから判断してポンド押し上げ要因と読まれたようだが、発表当初の反応はポンド急落で、このあたりの受け止め方は交錯していた。26日に発表された英10～12月期GDPも、小幅ながら市場予想を上回り、ポンド買い要因と読まれても不思議ではなかったが、その後ポンドは対ドル、対ユーロでむしろ軟調に推移したまま、週引けを迎えた。

今週の英ポンド相場は、今しばらくの堅調推移継続を予想。過去2週間余りで、英のEU離脱を巡る状況は明確に変化した。17日のメイ首相演説に前後して、EUとの自由貿易維持を断念(所謂ハードブレクジット)するとの観測が広がった。その観測はポンド急落を誘ったものの、首相演説で実際にその方針が確認されると、ポンドは大きく反発に転じ、その基調が現在まで続いている。24日の英最高裁判決では、英のEU離脱に関して、リスボン条約50条(離脱条項)の発動には英議会の承認が必要との高裁判決が維持された。英のEU離脱がポンド安要因で、50条発動に議会承認が必要との判断が少なからず離脱を難しくする、遅延させると読むのであれば、この決定をポンド上昇要因と読むことはできただろう。ただ、現時点で、「議会審議はあくまでも離脱条件の確認が目的」「離脱そのものの是非を問うものではない」「引き続き3月中の50条発動は十分可能」といった見方が支配的で、この決定の余波に対する思惑がポンドを押し上げたと読むのは無理が感じられた。結局、この間進んだポンド堅調には、不透明感の払拭という要素が大きく貢献したのではなかろうか。昨年6月以来、英のEU離脱に関しては、前例のない、わからないことだらけだったわけだが、その功罪はともかく、少なくとも「自由貿易にはこだわらない」「50条発動は英議会の権限」という2点だけでもはっきりしたのは、敢えて前向きに捉えることも可能であろう。ポンド上昇が不透明感の軽減を好感した結果であったのなら、その好感を覆すだけの材料が早晚出てくとも思えない。2日(木)には英中銀金融政策委員会の結果発表、その議事録、英中銀四半期インフレ報告書の発表もあるが、当面の英中銀金融政策に対する市場の関心は低く、ポンドが材料視する可能性は考え難い。  
(欧州資金部 本多秀俊)

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/3～1/6)の値動き: (対ドル) 安値 1.2200 高値 1.2432 終値 1.2283  
(対円) 安値 143.50 高値 147.48 終値 143.95



(資料)ブルームバーグ

## 4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7450 ~ 0.7650 85.00 ~ 88.00 円

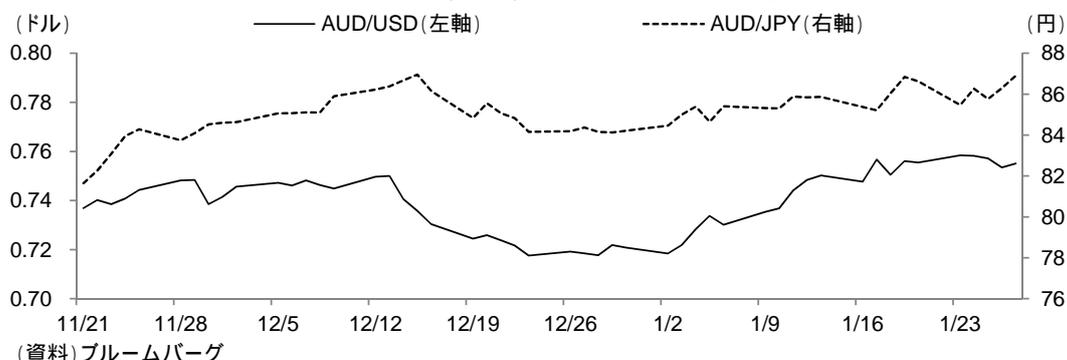
(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は、小幅なレンジ内で推移した。週初23日の豪ドルは対ドルで0.75台半ばにてオープン。前週末のトランプ大統領就任演説を受け、保護主義政策への懸念が強まる中で、ドル売り優勢となり、豪ドルは0.75台後半まで小幅に上昇。24日は堅調な国内株式市場にサポートされ、週高値0.7609まで上昇する。ただし、海外時間には米経済指標が好調な結果を示したことでドル買いが強まると、その後は0.75台半ばまで下落。25日は豪10~12月期消費者物価指数(CPI)が前期比・前年比ともに予想を下回る結果となり、豪州準備銀行(RBA)の利下げ観測も意識される中で0.75台前半まで弱含む。26日はシドニー市場が休場となる中、0.75台半ばを中心としたレンジ内で推移。27日は中国や韓国が旧正月入りしたことで、全般的に薄商い。一時週安値0.7511まで弱含んだ後、海外時間に米経済指標の軟調な結果を背景にドル売りが強まると、0.75台後半まで反発し、結局0.75台半ばで越週。一方、対円は週初23日に85円台前半でオープン。トランプ大統領の保護主義政策への懸念が強まる中で、ドル/円がじり安で推移し、海外時間にはムニューチン次期財務長官から「強すぎるドルは短期的には良くない」との発言が見られると、豪ドル/円は週安値85.33円まで下落した。24日はリスクセンチメントの改善から株式市場が上昇基調となる中、海外時間には一時86.32円まで上昇。25日は、弱い豪10~12月期CPIを受けて85円台前半まで弱含むも、その後は反転上昇。26日~27日はドル/円が堅調推移を見せたことで豪ドル/円も底堅く推移し、27日には週高値87.09円をつけた後、86円台後半で越週した。

今週の豪ドル相場は前週に続き、小幅なレンジ内での推移を予想する。豪ドル相場は今年に入り上昇基調を示してきたが、ここ2週間の値幅は150ポイント程度に留まり、上昇モメンタムは失われつつある。投機筋の動きとしても、1月20日のトランプ大統領就任演説までは、ドル中心のポジションを構築してきたものの、演説内容がサプライズに欠ける内容となったこともあり、足許の動意は乏しくなっているように見受けられる。加えて、先週27日からは中国をはじめとして、アジア諸国の多くが旧正月に伴う長期休暇入りしていることから実需フローは細り、相場の動因は減りつつある状況。今週は2月3日(金)に米1月雇用統計を控えているものの、全般的に動意に乏しく、豪ドル相場は0.75台を中心としたレンジ相場となるのではないかと予想される。今週の主な国内イベントは、30日(月)にデベルRBA総裁補佐講演、31日(火)に12月NAB企業景況感、2月2日(木)に12月貿易収支、海外では2月1日(水)に中国1月製造業・非製造業PMI、3日(金)に中国1月財新製造業PMIなどの発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/23~1/27)の値動き: (対ドル) 安値 0.7511 高値 0.7609 終値 0.7546  
(対円) 安値 85.33 高値 87.09 終値 86.91



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。